



令和7年度北海道旭川盲学校第3回学校運営協議会を2月3日（火）に開催しました。

- (1) 令和8年度の学校経営方針（案）及びグランドデザイン（案）について
- (2) PTA研修会について
- (3) 学校評価について
- (4) 次年度の学校運営協議会の進め方について（熟議）

の内容で開催されました。

旭川市福祉保健部障害福祉課・課長である水上委員長の挨拶から始まり、校長挨拶、各内容の説明を行い、学校運営へのご示唆をいただきました。また、今後の学校運営協議会の進め方について熟議を行いました。



## ○令和8年度の学校経営方針（案）及びグランドデザイン（案）について

- ・学校経営方針の内容が、年々分かりやすくなってきている。次年度から通級指導が本校で始まるとのことで期待している。視覚に障がいのある子供たちの支援も含めて、学習障がいで、読み書きに困り感のある子供たちの支援についても広げていただければありがたい。最近では、スマホを使用する子供たちが増え、視力の低下が問題になっている。子供たちの眼の健康をどのように守るかについても発信していただければとも思う。また、視覚に障がいのある人たちにとって、外出には様々なバリアがあると聞く。子供たちの未来を考えると、そのような困難さを軽減したり、取り払うための方法を提示していけると良いと思う。
- ・教育の4つの柱、「挑戦する力」「協働する力」「伝え合う力」「創造する力」は視覚障がい教育だけでなく、今の社会にとって重要な考え方だと思う。地域に合った特別支援教育のあり方をもさくしていただきたい。
- ・今年度の運動会や学習発表会を見て、子供たちがいろいろなことに挑戦してよく頑張っていると感心した。日常の学習の積み重ねのおかげ、先生方の指導のおかげでもあるのだと感じた。
- ・先生方がいろいろなことをしっかり考えてくださっていることが分かる。子供たちが少なくなっていることや、仕事を持つ母親が増えていることもある中でPTA活動のあり方も見直す時期にきているのだと思う。
- ・子供たちが受け身では無く、自分から発信することのできる力を身に付けていくことは大事なことだと思う。様々なところでインクルーシブ教育の推進について意見が出されることがあるが、子供たちそれぞれの特性を伸ばして社会に繋げる教育ができる特別支援学校のような場所が大事だと感じる。様々な学びの場を選択できることが大切だと思う。



## ○次年度の学校運営協議会の進め方について（熟議）

- ・他校では、既に行われているが、委員だけでなく、本校の職員や、保護者、地域の方々がテーマごとのグループを作り一緒になって話し合い、内容を考えていく形はどうかと考えている。例えば、学校のセンター的機能について、地域の資源をどのように活用するか、学校が地域に対してどのように何を還元できるかを考えるグループ。授業改善について考えるグループ。運動会や学習発表会の内容について考えるグループなどはどうか。
- ・グループでざっくばらんに知恵を出し合う形はいろいろなアイデアが出しやすくなるのではないか。「会議」となってしまうとかしこまってしまう。
- ・以前の勤務校で学校だけでは運営が難しくなった学校祭の内容について、商工会青年部の方にメンバーに入ってもらい、花火大会を企画したことがあった。場合によってはそのグループに子供も加わるというのも良いのではないか。
- ・以前、知り合いの子供が通う学校の学習発表会や学校祭のバザーを見に行っていたことがある。旭盲でも昔は学校祭でPTAがバザーをやっていたようだ。学校の活動についてグループで話し合う場があることは良いことだと思う。役員以外の保護者も来られるときに気軽に参加できる雰囲気があると良いのではと思う。また、先生方と話し合う機会があれば教師側と保護者側のすれ違いが減ることにも繋がると思う。
- ・盲学校が地域の近くにあり、子供たちの活動があることは、わたしたちには当たり前のことである。働いている人もいるので、沢山の人が参加できるわけでは無いかもしれないが行事に協力できることがあるかもしれない。
- ・昔はバザーなどで、地域住民と学校の子供たちとの距離が近かったように思うが、現在は学校側が個人情報の問題など様々な縛りができておぼつかしい。今は知らない人に声を掛けられたら警戒する時代になったように思う。挨拶すら難しいと感じる。
- ・学校の活動に役立てるためにクラウドファンディングを使った取り組みをすることで地域と繋がるというのも今の時代のやり方として良いのでは無いかな。
- ・クラウドファンディングは医大の活動の財源確保でも取り入れられた。活動内容をできるだけ具体的にすると目標額が達成しやすくなるようだ。
- ・昔はバザーなど学校の中にも楽しく周りに関わることができる場面が多かったように思う。
- ・地域との関わりという意味では、先日、向陵小学校の総合的な学習で児童を受け入れた。3年間掛けて、高齢者のこと、障害のある人たちのことなどを学習しているようだ。向陵小学校教員から要望があり、協力した。
- ・学校からの協力依頼という意味では、中学校の職場体験で、生徒が二人ほど病院を訪れ、1日看護師と一緒に行動してどのような仕事をしているのか学習しに来たことがあった。話がきた時は受け入れるかどうか迷ったが、結果として看護の仕事について興味を持ってもらうよい機会だった。
- ・グループでの話し合いに子供たちが参加して活動を作り上げていくような場面を設定できると良いのでは無いかなと思いを聞かせていただいた。調べ学習や学習発表会、運動会などの行事の内容を考えるような場面が良いのではと感じた。小さい頃、学校近隣の薬局やスーパーなどに行き、そこで仕事をしている方に質問をしたり、お願い事をする活動をしたことがあった。その場面で、挨拶のマナーや質問の仕方など知らない人たちとの接し方を学んだように記憶している。地域の方々も参加して下さるグループに参加し話し合いをする機会が、人と接するときに必要な話し方やマナーを身に付ける良い機会になると思う。